

病理診断科の紹介

病理診断科 部長 飛田 陽



病理診断科には、病理専門医 1 名・臨床検査技師 4 名が在籍しています。主な業務は組織診と細胞診であり、必要に応じて術中迅速診断や病理解剖も行います。病（やまい）の理（ことわり）を探求するために、顕微鏡だけでなく様々な技術を駆使しており、がんの個別化医療にも貢献しています。今回は 3 つの項目についてご紹介し、あの「手術室の奥の部屋」で何が行われているのか、皆さんに知っていただきたいと思います。

まず、細胞診と組織診は全く異なります（図 1）。病理といえばホルマリン、ホルマリンに入れるのは「組織」、生検や手術で採取される大小なりとも臓器の形が残った検体です。「細胞」は胸水、尿、子宮頸部などから得られ、3 名の細胞検査士がスクリーニングを行います。組織

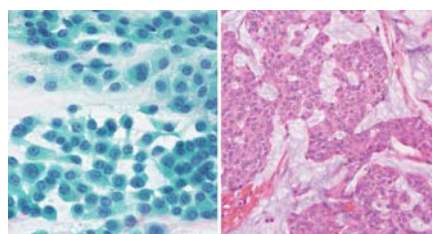


図1

は検査技師による包埋・薄切・染色を経て、病理医が診断します。

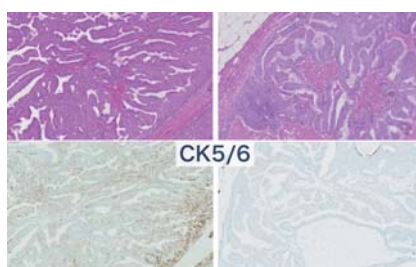


図2

顕微鏡で見れば何でも区別できると思われるかもしれませんが、形態による分類が難しい場合もあります。乳腺の乳頭腫（図 2 左：良性）と乳頭癌（図 2 右：悪性）は一見よく似ています。サイトケラチン 5/6 に対する免疫染色を追加すると、悪性腫瘍における単クローン性の細胞増殖が確認できます。当院では約 100 種類の抗体を様々な場面で活用しており、乳癌のエストロゲンレセプター、胃癌の HER2、悪性リンパ腫の CD20 など、治療選択に直結する診断項目も増えています。

最近では、癌に対する免疫療法が注目されています。病理組織ではこの「免疫細

胞が腫瘍を攻撃する」最前線を見ることも出来ます。腫瘍浸潤リンパ球の多い症例（図 3 右）は、多くの癌腫において予後が良好であること、また治療効果を得やすいことが分かっています。腫瘍細胞が PD-L1 を発現している場合、リンパ球と手を組んでその働きを抑制させてしまいますが、このブレーキを免疫チェックポイント阻害剤により外すと、活性化されたリンパ球が癌を攻撃するのです。

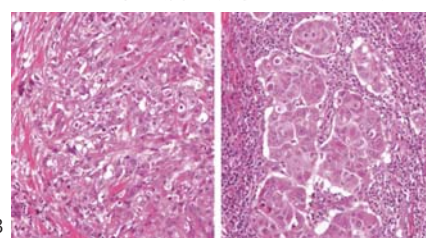


図3

我々の業務は全ての臨床科と関連しており、臨床医や看護師、検査技師を含め全ての医療スタッフとの緊密な連携が重要です。チーム医療を担う一員としてお役に立ちたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

臨床検査室技師長就任にあたって

— 検査室の在り方 —

臨床検査室 技師長 池田 陽一



この度、2019 年 10 月 1 日付で臨床検査室技師長を拝命いたしました。

臨床検査室は病院開設の翌年、1957 年に発足し、血液検査、一般検査、細菌検査、病理検査、臨床化学、生理検査からなる部門です。

また、初代技師長が就任して以来、私で 6 代目の技師長になります。1986 年 4 月に当院に入職し、歴代の技師長からも臨床検査室の在り方について多くを学ぶことができました。今、技師長という職の重責と歴史をひしひしと感じながら、責務を果たすべく日々励んでおります。



LabOSPECT 008
生化学検査のメイン測定機

臨床検査室では、「診療への貢献」「チーム医療における貢献」「人材育成」の、3 つの柱を目標に掲げています。

診療への貢献

当院の理念に「思いやりの医療をもって地域社会に貢献する」とあるように、地域医療を担う機関として、良質で高度な医療を効率的に行う使命感を持ち、精度の高い検査結果を迅速かつ正確に提供し、診療を支援します。

具体的な例として、当室は年 3 回、外部精度管理調査に参加しており、毎年優秀な成績を収めています。引き続き、検査精度の維持、向上に努めて参ります。

チーム医療における貢献

他部署との連携を密にし、垣根を越えた関係を築くことで、お互いに支え合う気持ちを持つことができます。

各種委員会等で、臨床検査技師としての能力を活かし、強調性と協調性の均衡を保ちながら、チームの「わ」を広げ、固い絆を築いて参ります。

人材育成

個々の能力を尊重し、自ら学べる環境を作ります。学会や研修会等で学んできたことを伝え、教えることで個人の能力アップに繋がります。

自分の意志を持って行動ができ、人の意見が聴ける、人に意見が言えるような人材育成に取り組んで参ります。

行き詰まった時は、入職当時の事務長から頂いたお言葉「初心忘れるべからず」を思い出して、自身を鼓舞して参ります。まだまだ未熟な技師長ですが、今後も皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。